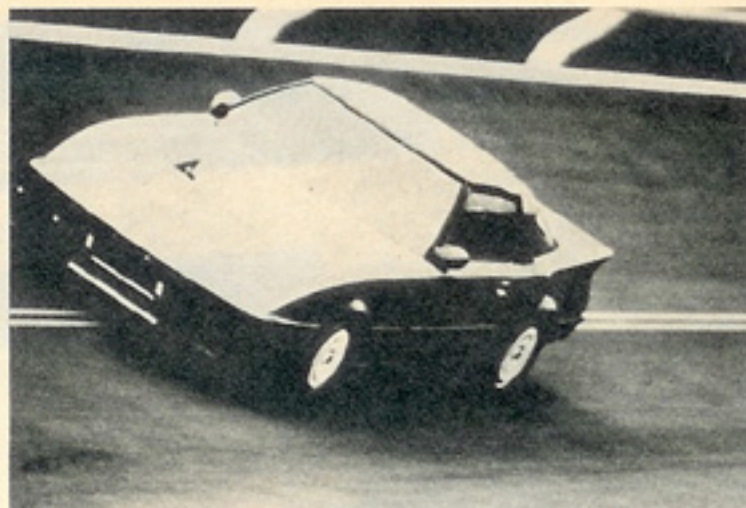




ソアラとはば同仕様のトラスト・セリカXXは、早々にリタイア。度重なるトライアルを行ってきた5M-Gは、もう限界なのか？



国内のREパワーをリードすると言ってもいい12Aツインターボ搭載の両宮RX-7。ミッションは可能性は十分あったのだが。

ただ、最終的にはどこまで伸びるか？という点では、RX-7のエンジンの性能は、中宮・両宮のRX-7よりも劣る。まして、エンジンが壊れてしまったら、競争力はない。

「フェイスだ。過去トライアルチューンのマシンは、何度かこの谷田部の高速周回路を走ってはいるが、このツインターボZは初お目見得。全くの未知数である。ブラックボディに赤く、TRIALの文字を入れたZは第1周回297・520km/hを記録。これはひよっとしたら……。第2周回、ブラックボディがあらわれた。さつきより速いのは目で見て確実にわかる。記録は？超えたのか？ 計測担当からの報告を待つ。誰もがトランシーバーに注目している。牧原氏の顔が、いくぶん引きつっているかに見える。

307・955 km/h

伏兵がいた。国内最高速の達成である。ひよっとしてしまったのだ。牧原氏、Zのオーナーである久保氏が顔をクシャクシャにしてガツポーズ。やられたっ！ 山本氏が煙草をアスファルトにたたきつける。大台に乗せると共に、過去打ち出された300km/h台の2つの記録（P27参照）を同時に破る、文字通りの

最高速記録が生まれた。

山本・大川氏、常連の意地

インターバルの後、RE両宮・RX-7。計測区間を通過することなくコースアウト。ミッショントラブルだ。12Aツインターボの大パワーに耐えきれず、5速ギアがなめてしまっている。

先ほどの1・0kg/cmから1・1kg/cmへと過給圧を上げられたRSヤマトのZが再度コースイン。山本氏が険しい表情でそれを見送る。これも速い。トライアルZの速さと同等の感銘を与える。

300・751 km/h

出た！ 2度目の歓声が上がる。御三家のおなじみ3車中、唯一の300km/hオーバーだ。周囲の喜びの中で、唯一山本氏の表情だけが曇っている。完全にトライアルZを意識しているのだ。またもや過給圧を1・15kg/cmへとアップさせ3度目のトライ。しかし3度目の正直はならず。高過給圧にヘッドガスケットは耐えられなかった。結局、山本氏の眉間のシワは消えぬままに終わる。



口元が緩みっぱなしの牧原氏（左端）。両手でVサインのオーナー・久保氏も手放しの喜びようだった。もちろんZは日頃の足である

※ ※

図らずも3車同時には300km/h台マーク。あれほど待ち望み、焦らされた数字が一度に3つである。スタッフがそのうれしさを実感するのは、待ちに待たされた分だけ時間がかかり、そして喜びは文字にするのが困難なあまりに大きなものだった。

ここでうれしいアクシデントが起こる。一度も計測できないままにトライアルを中止したトラスト・セリカXXに代わり、大川氏の個人所有である5M-Gソアラ（雨中走行で279・937km/hを記録している）が登場。とりあえずセッティングのために、大川氏がステアリングを握りコースイン。過給圧設定のためということだったが、そんな様子とはケラも見られない。第1周回295・081km/h。この時点では「ずいぶんと気合いの入ったセッティングだなあ」と、ギャラリイ達は笑っていた。しかし第2周回297・766km/h。この数字を聞いて全員の顔が、大川氏が自らのドライビングで300km/h台マークを狙っていることに気づく。第3周回はスビドダウン、そして第4周回。

300・500 km/h

周回ごとに過給圧を上げ、1・4kg/cmに設定の第4周回、トラストの看板男としての意地を自らの手で実らせた。タービン、インタークーラー、マフラーこそ連入、他は全くセリカXXと同仕様の5M-Gツインターボ、ちなみにノーマルのファイナルギアで打ち出した記録である。

ひと味違うL型、パワー

井上晴男選手



いつも、大パワーエンジンを搭載させたチューンド・カーを、谷田部でドライブしてくるのが井上晴男選手である。その井上選手が、トライアルの307・955km/hマシンをドライブした時の様子を、次の通りに話してくれた。

「最初は、やっぱり、いつも通り慣れている3台と違って緊張気味だった。それに比べるとパワーはさすがだ。第一印象だ。特にRSヤマトのZとは、よく似たエンジン仕様だから強く感じるかもしれないけど、計測される所でのトルクの感じが、違うんだよね。絶対的パワーはどちらもそんなに違わないだろうけど、ターボのレスポンスが良かったって感じた。だから、2周目に計測した時に、ピンと来たんだ。案の定、ウラに掲示されたボードには、307km/hの表示が出てたから、その時はウレシかったねえ。正直いってボクが乗りはじめて2年近くになるけど、まったく出ないから、ちょっと責任感じてたけど、これでやっと安心できたよ」

